

# 私学いばらき

発行 茨城県私立中学高等学校  
保護者会連合会  
(茨城県私学協会内)  
〒310-0911 水戸市見和 1-356-2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-226-1224・FAX 029-226-1273

ホームページアドレス  
<http://www.ibaraki-shigaku.jp>

## 大切と知った私保連の活動と 子供たちの限らない可能性のために



平成28年度  
茨城県私立中学高等学校保護者会連合会  
会長 根本 孝

皆さまこんにちは。平成28年6月の本会総会におきまして前会長薄井恵津子様より会長職を引き継いで以来、様々な活動に取組む機会

を頂き、ここまで歩んでくることができました。これもひとえに会員各校の保護者の皆さまのご支援と私学協会の先生方のご協力の賜であり、この場をお借りして皆さまにお礼申し上げます。

さて本会は、学校教育での私立学校の重要性に鑑み、保護者の立場から私学関係団体と密接な連携をもち、共に私学の振興と青少年の健全育成に努め、私学教育の充実、発展に寄与することを目的に、平成22年5月、旧会から発展的統合により設立されました。私立学校はそれぞれの建学の精神に基づき、特色ある独自の教育を展開しています。保護者の立場から、よりよい教育環境の整備と充実を求めていく活動を行うことにより、県全体の教育力の発展に

もつながることと思います。

平成28年度も本会の活動を通じて本県の私学振興と家計負担の軽減に向けての改善点など多くを学ばせて頂きました。中でも県会議員への私学振興への理解と私学支援をお願いする陳情、私学振興担当の県総務部長と県知事への私学教育の予算化や私学振興への配慮をお願いする陳情や本県選出の国会議員への陳情で、家計負担の実情等について率直にお話しさせて頂きました。また28年度は関東地区保護者会連絡協議会の会長、全国の日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会の副会長として各県と連携しつつ制度要望等を行いました。11月には、県私保連研修会を開催し、生徒の皆さんの善行表彰や聖徳大学教授の鈴木由美先生により子どもとの接し方についてなど貴重なお話を頂きました。

おかげさまで、受け継ぎましたこれら活動を通じて私学教育の充実や家計負担の軽減への成果が着実に得られてきています。これからも皆さまのご理解ご協力をいただきながら子供たちが希望と能力に応じた教育の機会を得られるよう、本会として努力してまいりたいと思います。

## 県私保連について

茨城県私立中学高等学校保護者会連合会（略称「県私保連」）は、県私保連の前身となる茨城県私学父母の会が、昭和57年、全国私学父母の会（現在の「日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会」）と協調し、父母自身の問題を父母の立場で解決する場を求めて発足しました。平成19年には、現在の名称に変更し、発足から一貫して、茨城県私学協会・県私保連・茨城県高等学校PTA連合会私学部会（略称「私学部会」）の私学三団体が連携・協調して私立中学高等学校経

常費等助成に関する請願・陳情等の活動をしてまいりました。

平成22年5月、全国組織をはじめとする関係団体との連携を強化するために、県私保連は私学部会と統合して、現在の県私保連を設立しました。

県私保連は、「私立学校助成の拡充及び保護者の教育費負担の軽減に向けての運動推進」を主要な事業に掲げ、主に私学助成に対する充実強化のため毎年活動を進めております。

## 平成 28 年度役員

- 会長……根本 孝  
(聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・  
高等学校後援会会長)
- 副会長……村田 雅彦  
(茨城キリスト教学園高等学校PTA会長)
- 副会長……川並 芳純  
(聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・  
高等学校校長)

- 理事……山崎 一哉  
(愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校母師会会長)
- 理事……菅澤 明子  
(鹿島学園高等学校PTA会長)
- 監事……薄井 恵津子  
(大成女子高等学校前父母の会会長)
- 監事……額賀 修一  
(大成女子高等学校理事長・校長)

# 28年度 活動報告

## 会議等

- (1) 茨城県私立中学高等学校保護者会連合会総会・教育懇談会（6月14日 会場：ホテルレイクビュー水戸 出席者数：88名）

総会議事に先立ち、県総務部総務課私学振興室より「本県の私学助成について」の説明をいただきました。続いて総会議事に入り、平成27年度事業報告および収支決算報告、平成28年度役員を選任、平成28年度事業計画および収支予算など、提出議案はすべて承認されました。続いて、保護者会活動に尽力された方々の功績を讃える平成28年度県私保連功労者表彰では、特別功労者4名、功労者8名の方々に感謝状の授与を行いました。総会終了後、教育懇談会が開催され、各会員校の保護者会の情報交換をするなど有意義な時間を過ごすことができました。

- (2) 日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会 総会・研修会（7月21日・22日 会場：名古屋観光ホテル 出席者数：全国130名 茨城5名）



「今こそ私学からの発信～教育が未来を拓く～」サブタイトル「21世紀（あす）を担う子ども達のために」をテーマに、北海道から沖縄まで、すべての都道府県

から代表者が集って開催されました。総会では、平成27年事業報告・決算報告の後、平成28年度の事業計画案と予算案が審議され、全会一致で承認されました。また、本県の根本孝会長は平成28年度日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会副会長に選出されました。総会後には、日本私立中学高等学校連合会副会長の近藤彰朗先生の講演および地元高校生による合唱発表があり、交流会も行われました。翌日は、こころぎふ臨床心理センター長の長谷川博一先生の講演、さらに徳川美術館および名古屋科学館を視察する臨地研修が行われ、全日程を終了しました。

- (3) 関東地区私立小・中・高等学校保護者会連合会連絡協議会代表者会及び研修会 神奈川大会（8月26日 会場：横浜ロイヤルパークホテル 出席者数：関東89名 茨城13名）



代表者会では、各県から私学振興助成運動とその成果についての報告がありました。

その後の研修会において、横浜高等学校 硬式野球部終身名誉監督 渡辺元智先生から「子どもたちの将来を考える」～50 高校野球を振り返る～ と題した講演がありました。最後の懇親会においては、神奈川県産の食材を主にしたお料理を頂きながら和やかなひと時を過ごしました。

平成29年度の同大会は埼玉県での開催となります。

## 県私保連研修会

(11月15日 会場：水戸京成ホテル)

県内私立中学高等学校の保護者・教職員110名が参加し、県私保連の研修会を開催しました。講演会では、聖徳大学教授鈴木由美先生をお招きし、「子どもへの話し方・接し方」という演題でご講演をいただきました。

内容は、ユーモアを交えてとても分かりやすく、親子関係・家庭のあり方等改めて考えさせられ有意義な研修となりました。



## 善行生徒表彰



11月15日の県私保連研修会において他の模範となる生徒・グループを表彰する善行生徒表彰を行いました。村田副会長から活動内容の紹介があり、根本会長より個人3名と3つのグループに表彰状を授与しました。今後、このような社会貢献がますます盛んになることを期待しています。

### ●茨城キリスト教学園高等学校

前田 有香 (高校3年)

〔社会福祉活動〕

小学校の頃から、世界の子供たちを支えるための団体活動に参加し、ユニセフの街頭募金活動などを行っている。

### ●水戸葵陵高等学校

村山 恵惟 (高校2年)

〔国際貢献活動〕

日本文化に興味を持ち、太平洋・島サミットや在パラオ共和国日本国大使館主催の「日本フェア」に参加し、日本の歴史的な衣装である着物を通して現地の人たちと文化交流を行った。

### ●常総学院高等学校

矢口 瑠威 稲川 和志 (高校2年)

〔緊急時貢献活動〕

土浦のお祭りに向かう途中、川の土手で炎が上がっているのを発見し、直ちに消防署に連絡し、事なきを得た。

### ●明秀学園日立高等学校

〔明秀日立ブルーフェアリーズ 28名〕

〔地域文化の向上活動〕

昭和63年発足以来、地元の自治体からの依頼を受け地域のイベントでダンスを披露している。

### ●霞ヶ浦高等学校

〔チアダンス部スパークルバニーズ 34名〕

〔社会福祉活動〕

地元阿見町で開催されたふれあい祭りや商工会祭りに参加し、地域の人々と交流している。

### ●聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・高等学校

〔吹奏楽部 45名〕

〔社会福祉活動〕〔地域文化の向上活動〕

創立当初から、学校訪問や地域のイベントでの演奏活動を通じて、地域の人々と交流している。

以上 6校：個人4名・3団体



## 私学助成に関する請願・陳情



県私保連役員は私学協会役員とともに以下の請願・陳情を行いました。

- (1) 11月29日(火) メルパルク東京で私学振興全国大会が開催され、県私学協会鈴木康之会長、県私保連根本孝会長をはじめ、役員及び役員校の保護者が参加しました。大会では、私学助成への保護者の願いと公教育における公私間の様々な格差是正を目指す決議が行われました。閉会後は大会決議をもって県選出の国会議員への陳情を行いました。
- (2) 12月1日(木) 県議会議長・自民党県連への請願・陳情を行いました。
- (3) 12月9日(金) 県知事・県総務部長へ陳情を行いました。

### 要望事項

- 1 経常費補助金について
- 2 高等学校等就学支援金の改善充実と授業料減免事業の拡充について
- 3 教職員研修に係る補助金について



### 請願審査結果

平成28年12月27日付で、私学協会とともに県議会議長に提出した「平成29年度私立高等学校等経常費等助成に関する請願」が採択された旨の通知を同議長よりいただきました。

# 私学助成について

茨城県内の私立学校に通う生徒を持つ、私たち保護者の教育費負担軽減を目的としている主な私学助成のご紹介

## 私立高等学校等経常費補助金

私学助成の主なものが「経常費補助金」です。経常費補助金は、私立学校の経営の健全化、教育条件の維持向上及び就学上の保護者負担の軽減を目的として県から私立学校に補助されています。

平成28年度は高校生1人当たり346,732円<sup>\*</sup>（中等教育学校後期課程同額）・中学生1人当たり317,074円（中等教育学校前期課程同額）の補助金が交付されました。

※補助単価は標準額。学校の規模（生徒数、教職員）等により異なります。

生徒1人当たりの補助金額推移

県私学振興室資料（単位：円）

学校種		27年度	28年度	29年度
高等学校		340,044	346,732	352,190
中等教育学校	後期			
	前期	313,449	317,074	320,800
中学校				
通信制高等学校（狭域通信制）		67,927	68,715	69,504

注）通信制高等学校への補助金額は、狭域通信制の高等学校への県補助金額です。広域通信制の場合は国からの直接補助になります。

## 私立高等学校等就学支援金

家庭の経済状況にかかわらず、すべての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込めるよう、教育費負担の軽減を図ることを目的に授業料の一定額が「高等学校等就学支援金」として国から支給されています。

○高等学校（全日制課程）の生徒の場合

- ・高等学校等就学支援金は、年収910万円未満世帯に、月額9,900円（年額118,800円・県立の授業料相当分）支給されます。
- ・保護者の年収に応じて一定額加算（1.5～2.5倍）されます。

県私学振興室資料（単位：円）

保護者の年収の条件	支給額（年額）	加算区分
250万円未満	297,000	2.5倍
250～350万円未満	237,600	2倍
350～590万円未満	178,200	1.5倍
590～910万円未満	118,800	一律
910万円以上	—	—

※年収は、保護者の内どちらか一方が働き、高校生1人（16歳以上）、中学生1人の4人世帯の目安です。

## 私立高等学校等授業料減免事業

経済的理由により授業料等の納入が困難な私立高等学校に通う生徒の修学機会の確保を図るため、高等学校等就学支援金に上乗せして授業料減免措置を実施している学校法人に対して県から補助金が交付されています。

平成29年度からは、新たに私立高等学校の入学金減免制度が創設されました。

また、私立小中学校に通う児童生徒に対する授業料減免措置についても、国の新規事業「私立中学校等就学支援実証事業」を踏まえ、平成29年度から一部拡充して実施する予定です。

注）私立学校によっては独自の奨学金制度を実施していることなどから、この事業を実施していない学校があります。

（私立高等学校・全日制課程の場合）

県私学振興室資料

保護者の年収の条件	補助区分	県からの補助額
350万円未満	授業料	保護者の年収区分による就学支援金支給額と県平均授業料（年額320,000円）との差額（1割学校負担）を補助
	入学金（新規）	県平均入学金192,000円の1/2を補助
350～590万円未満	授業料	保護者の年収区分による就学支援金支給額と年額180,000円との差額（1割学校負担）を補助
	入学金（新規）	県平均入学金192,000円の1/4を補助

(私立中学校・小学生生徒の場合) (予定)

保護者の 年収の区分	補助区分	補助上限額
400万円未満	授業料	(小学校) 100,000万円 (国事業分 <sup>*</sup> )
		(中学校) 180,000円から国事業分 <sup>*</sup> を控除した額 (1割学校負担) を補助

※国事業分：私立中学校等修学支援実証事業による支援

## 私立高等学校等奨学給付金

すべての生徒が安心して教育を受けられるよう、低所得世帯（市町村民税所得割額が非課税の世帯）の生徒に対して奨学のための給付金（授業料以外の教科書費、教材費、学用品等の購入経費等）が県から支給されています。

注) 保護者等が茨城県内に在住していることが支給の要件となります。

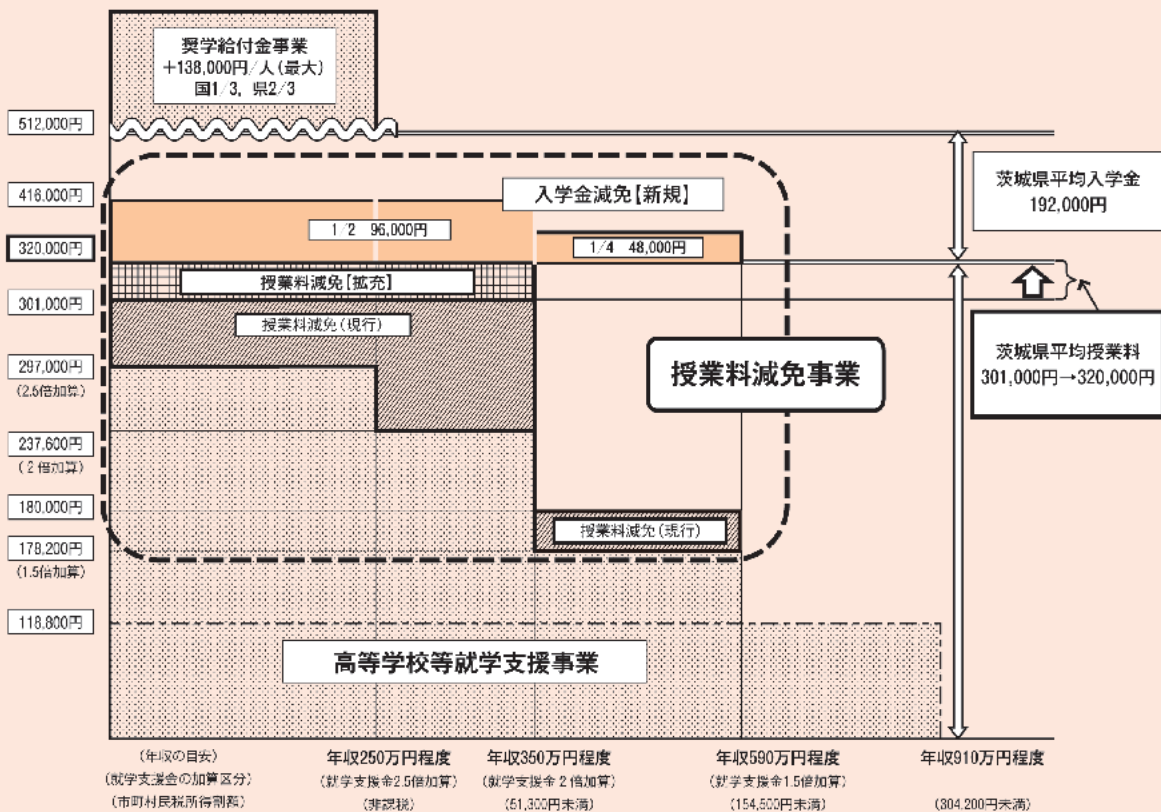
県私学振興室資料（単位：円）

区 分	奨学給付金支給額（年額） ※（ ）は通信制
生活保護受給世帯	52,600 (52,600)
第1子の高校生等がいる世帯	84,000 (38,100)
23歳未満の被扶養者がある世帯で第2子以降の高校生等がいる世帯	138,000 (38,100)

参考

### 私立高等学校等就学支援金・授業料減免事業のイメージ図

保護者の年収 350万円未満世帯の場合、就学支援金及び授業料減免により、県平均授業料（年額 320,000円）までが実質無償化されます。



- (注) 1 奨学給付金は授業料以外の教科書費、教材費、学用品等の購入経費を支援する事業  
 2 就学支援金及び授業料減免事業は授業料の負担軽減する事業  
 3 授業料減免事業には学校負担（1割）を含む  
 4 年収は、保護者のうちどちらか一方が働き、高校生1人、中学生1人の4人世帯の目安

## 会員校紹介

### 鹿島学園高等学校

本校は「緑豊かな神話の郷」である茨城県鹿嶋市にあり、平成元年の創立以来、全日制と全国にある通信制を合わせ、多くの生徒が勉強やスポーツ他、様々な分野で活躍し、多くの実績を残しています。

3年間の高校生活を通じて「確かな学力」を身につけ、加速するグローバル化に向けて「将来をみすえた国際理解」のできる「豊かな人格」を形成し、世界で活躍できる人材を育成することを目標としています。特に「英語教育」に力を入れており、複数のネイティブスピーカーと日本人教師による複合的な授業を行い、かつ、習熟度別の授業を展開し、生徒の理解度に合わせたより丁寧な授業を行っています。昨年スタートした「グローバルコース」は、常に英語が飛び交い、積極的な発言が求められる環境となっています。また、留学生を中心に鹿嶋市内の中学校で英語交流事業を行っており、中学校の教

員の方々に大変喜ばれています。

部活動にも力を入れており、全国大会の常連サッカー部を中心に11の強化部があり、経験豊かな指導者の下で日々切磋琢磨しています。また、アントラーズユースの生徒も在籍しており、体育祭や球技大会では教員と生徒が一体となって勝負する白熱したものになっています。

保護者の方々とは年に2回ある授業参観や、親睦を深めるためのレクリエーションや旅行を行い、相互理解を図っております。今後も保護者の皆さまとの連携を大切にし、地域に必要とされる学校作りを目指して参ります。



### 愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校

本校は緑豊かな自然に囲まれた高台に位置し、静寂の中で落ち着いた学校生活を送ることができます。春には校庭に植えられている262本の桜が一斉に咲き誇り、桜の名所として市民の方々に親しまれています。

昭和40年の開校以来一貫して女子教育を行っており、校訓の「親切・正直」を教育目標に据え、豊かな知識と技術を身につけた社会人、そして、美しい情操と強い奉仕の心を持った家庭人の育成に努めています。また、「オンリーワン」をキーワードとして一人ひとりの生徒をかけがえない存在とした教育を目指し、全教員が全生徒に対する理解を共有しています。国語・数学・英語の三教科では習熟度別少人数制授業を行い、個々の能力に合わせて基礎基本から学び、学力向上を図っています。

母師会（PTA）活動では、文化祭でのバザー出店、マラソン大会での豚汁の炊き出しを行うなど、学校行事に参加しながら生徒の学校での様子を理解いただいています。また、年1回行われる研修旅行では生徒たちが宿泊学習で利用する施設を訪れ、学園の教育活動への理解を深めていただいています。これからも生徒のために学校と保護者の皆様と協力し、積極的に活動していきたいと思っております。



#### 会員 29年4月現在 25保護者会

明秀学園日立高等学校・茨城キリスト教学園高等学校・茨城キリスト教学園中学校・大成女子高等学校・常磐大学高等学校・茨城高等学校中学校・水戸女子高等学校・水戸啓明高等学校・水城高等学校・水戸葵陵高等学校・水戸英宏中学校・清真学園高等学校中学校・鹿島学園高等学校・岩瀬日本大学高等学校・つくば国際大学高等学校・霞ヶ浦高等学校・土浦日本大学高等学校・土浦日本大学中等教育学校・東洋大学附属牛久高等学校・愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校・江戸川学園取手高等学校中学校・常総学院高等学校中学校・聖徳大学附属取手聖徳女子中学校高等学校・茗溪学園中学校高等学校・つくば秀英高等学校

#### 29年度の活動予定

6月16日	総会及び教育懇談会
6月23日	関東地区私学保護者会連合会理事会（埼玉県）
7月13日～14日	日私学保連総会・研修会（千葉県）
8月25日	関東地区私学保護者会連合会代表者会及び研修会（埼玉県）
11月15日	請願・陳情打ち合わせ会議 研修会及び善行生徒表彰
11月21日	私学振興全国大会（メルパルク東京・港区芝公園）

#### 編集後記

「私学いばらき」第7号をお届けいたします。私学を取り巻く状況は厳しさを増しておりますが、私学助成に関する請願・陳情の活動が実を結びつつあるようです。ひとえに、関係者各位・会員の皆様の諸活動に対するご理解とご尽力の賜物と感謝しております。